

# アジア・新興国 ～NZ政治は混迷の様相を呈するか～

経済調査部 首席エコノミスト 西濱 徹(にしはま とおる)

## 総選挙では与党国民党が辛勝も、過半数割れへ

9月23日に実施されたニュージーランドの総選挙では、イングリッシュ首相率いる最大与党国民党が最大得票を得て第1党を死守した。同国の政界では、昨年末にキー前首相が突然辞任を表明し、キー政権下で副首相兼財務相を務めたイングリッシュ氏に事実上禅譲される形で政権運営が引き継がれた。その後もイングリッシュ首相の下で堅実な経済政策運営がなされたことで、国民党の大勝利が確実視されてきた。しかし、支持率低迷が続いた最大野党労働党は今年8月に党首交代を行い、37歳の新党首の下で「変化」を強烈に訴える選挙戦を展開したことで、風向きは大きく変わる事となる。

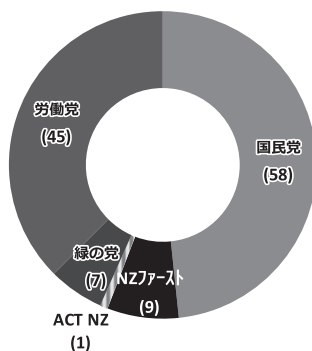
ジャシンダ・アーダーン新党首の下、労働党は「ジャシンダ旋風」とも評される風を巻き起こして国民党を猛追し、一時は世論調査で国民党を上回った。ただし、その後は好調な景気を背景に国民党が巻き返しを図ったほか、労働党は財源面で選挙公約の見直しに追い込まれ、結果的に国民党に及ばなかった。他方、国民党は単独での議席数が半数に満たない状況となり、他党との連立が必要になっている。こうしたなか、排外主義かつ大衆迎合的な主張を繰り返すNZファースト党が「キャスティングボード」を握るなど、政権の行方に不透明感が出ている。

## 次期政権の枠組は政策の方向性に大きな影響

足下のNZ景気は、2011年のカンタベリー地震の復興需要は一巡しているものの、世界経済の自律回復に伴う輸出拡大の動きや、堅調な移民流入などを背景とする旺盛な個人消費の拡大を追い風に底堅い展開が続いている。過熱が懸念された不動産市場では、規制強化の動きを反映して落ち着きを取り戻しつつある。ただし、次期政権の枠組を巡っては、外国人投資家に対する規制強化や移民制限を主張する向きもくすぶるなど、議論の行方によっては市況が大きく崩れるリスクがある。さらに、中道右派の国民党政権の下では自由貿易が志向され、TPP(環太平洋パートナーシップ協定)をはじめとする様々な自由貿易網が敷かれたが、次期政権の下ではこうした流れが一転する可能性もある。

通貨NZドルは「高金利通貨」として人気を集めたが、足下の政策金利は過去最低を更新するなどそうした状況は大きく変化している。さらに、今後は米国による金融政策の正常化の動きが見込まれ、両国の金融政策の方向性が逆方向となる可能性もある。さらに、次期政権の下で選ばれる次期中銀総裁人事も不透明ななか、これまで以上に「NZドル安」を志向する人事が採られる可能性もある。政治の混迷はNZ経済に大きな傷跡を残す可能性もあろう。

### 資料1 党派別獲得議席数



(出所)各種資料などより第一生命経済研究所作成

### 資料2 NZドル相場(対米ドル、日本円)の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成